

2004年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 17年 1月 28日

I 概要

実践団体・担当者名	劇団ふじさん (担当者：石山正登)	
連絡先	090-4162-1215	
プランタイトル	防災寸劇巡回講演	
目的	堅苦しいイメージを持つ防災教育を、劇を使うことにより、演じる側も見る側も、楽しんで防災について学ぶ。	
プランの概略	① 防災寸劇を行なうことにより、小学生には防災学に興味を、中学生にはちょっとした基礎もふくめ授業を行った。	
プランの対象と参加人数	①富士常葉の学生 17人。大曽根中学校の生徒約 200人。 ②富士常葉の学生 17人。伊豆南中小学校児童約 50人	
実施日時	① 名古屋市立大曽根中学校 11月9日 ② 伊豆南中小学校 1月13日	
主な実施場所	① 名古屋市立大曽根中学校 体育館 ② 伊豆南中小学校 体育館	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①名古屋市立大曽根中学校 ②伊豆南中小学校
	連携したきっかけ・理由	①チャレンジプラン初回顔合わせ時、劇を見せて欲しいと言われ、面識があった。また、小・中学生を対象に活動していたため引き受けた。
	連携団体へのアプローチ方法	メール交換により、日程あわした。
	連携団体との打合せ回数	Eメールにて
	連携団体との役割分担	①体育館と劇で使う道具（椅子、机、黒板、スクリーンなど）の提供。 ②アンケートの協力。 ③ビデオ撮影をやってもらった。

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	17名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	「徒手搬送法」班長 細金智弘 (環境防災学部3年) 「3-Bタイゾー先生」 班長 川畑祥則 (環境防災学部4年) 「非常持ち出し袋」 班長 石山正登 (環境防災学部4年)
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	平成16年9月～16年11月
	立案時間	3時間
	上記のうち打合せ回数	2回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○各班同士にライバル意識を待たせ、意識を高く持たせた。 ○観客の年齢層に合わせて衣装、台詞を変えた。 ○観客を舞台に参加させ、劇のムードを盛り上げること	
プラン立案で 苦労した点	○各班の意識向上。 ○台本の作成 ○教える立場に立つ、視野の合わせ方。(小中学生それぞれのレベルの合わせ方)	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	17 名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	<p>非常持ち出し袋班 父：栗田 母：石山正登 姉：中島純子 弟：山中誠司 劇進行役：遠津真知子</p> <p>3-Bタイゾー先生班 太った生徒：古屋和博 天然ボケをかます生徒：黒澤拓人 不良の生徒：林 優等生：上杉 女性徒：佐野 先生：川端</p> <p>徒手搬送法班 主人公：細金智弘 おじいさん：諏訪部隆志 通りすぎたヤンキ〜：坪口晃太郎 通りすぎたサラリーマン：高木宏幸 パワーポイント：千葉 劇進行役：石垣</p>
準備に要した日 数・時間	準備期間	2004年09月16日～2004年09月30日
	準備総時間	3時間× 2回
	上記の内打合せ回数	2回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	発表する各小中学校。
	どのように働きかけたか	メール交換
	結果	
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	①名古屋市立大曾根中学校PTA ②伊豆南中小学校PTA
	どのように働きかけたか	先方の学校に事前に保護者、PTAへ呼びかけを依頼した。
	結果	数名だが、保護者の方がみにきていただくことができた。(伊豆南中小学校)

機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	ノートパソコン カッター（中年男性） カッター（ロングヘア） スカート エプロン
	入手先・入手方法	雑貨店、洋品店で購入 （パソコンは学生持参）
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	パワーポイントを寸劇と交えて使用したため
参加者の募集	募集方法	参加者が大曾根中学校、南中小学校の生徒だったため必要なし。
	募集期間	年 月 日 ～ 月 日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月	予定決め 役決め、 台本作り。	教材集め。	
12月	練習	道具作り。	
2004 1月			東京大学、京都大学、富士常葉大学の共同授業で、防災寸劇を行う。
2月			
3月			
4月	学生がゼミ時間を利用して集まる。（顔合わせ）		
5月	台本作成	各班により異なるが、大学の図書館でかりた教材	
6月	練習	カツラ、衣装、非常持ち出し袋の中身、パソコン	
7月	練習	カツラ、衣装、非常持ち出し袋の中身、パソコン	
8月	富士常葉大学のオープンキャンパスにて披露		8/21 オープンキャンパス初講演
9月	オープンキャンパスでの反省		
10月			
11月			
12月			
2005 1月	南中小学校で講演		南中小学校で講演

V実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動の準備から片付けまでを時系列をおって記入して下さい。)

時間	場所	活動内容	指導者 講師等	使用機材・ 教材等	留意点	子供たちの反応・声	苦労した点・工夫した点	スタッフの人数役割
11:30	南中小学校 に到着	荷物、機材を体育館に搬入	石山		現場がどのような場所かを判断して、どこに何を置くべきかをすぐ見極める。		各班、問題がなかった。共有したカツラも連携をとることで紛失することがなかった。	全員で機材を搬入
12:30	教室	小学校の教師からあいさつをうける。	石山					
12:45	教室	トイレやかるい食事を済ます						
13:00	体育館	リハーサル	石山		いつも練習している場所と違うので、その場所になれなくてはならない			
13:30	体育館	あいさつ	重川教授					
13:35		団長より、劇団を代表してあいさつ	石山					
13:40		司会より、あいさつ						
13:45		『徒手搬送法』講演	細金	パソコン、カツラ、おじいさんの衣装、杖、スーツ	台詞を忘れてしまったらアドリブ	徒手搬送の実演をしたときに盛り上がりがあった。	小学生の顔色をみながら、どのような点が楽しんでもらえるのかを観察した まどめの際、子供たちを被害者にして搬送したり、先生を搬送した。	スタッフ6名 主人公：細金 脇役1：坪口 脇役2：高木 倒れているおじいさん：諏訪部 パワーポイント調整及び加害者：千葉 劇進行：石垣
14:05		『徒手搬送法』講演終了						
14:06		『3-Bタイソウ先生』講演	古屋	カツラ×3、衣装(女装)	女装は受けすぎても、つまらなすぎてもいけない	かつらのバラエティの良さに笑ってくれた。 基本的に真剣聞いてくれた。	災害伝言ダイヤルについて、思ったよりも真剣に聞いてもらった。	スタッフ6名 太った生徒：古屋和博 天然ボケをかます生徒：黒澤拓人 不良の生徒：林 優等生：上杉 女性徒：佐野 先生：川端
14:21		『3-Bタイソウ先生』講演終了						
14:22		休憩						
15:00		『非常持ち出し袋』講演	石山	非常持ち出し袋の中身、衣装、カツラ、ふえ、パソコン	挿入音を初めて使用。音量に気を配る	お父さん役のキャラの濃さで劇がきわだったのでみんな楽しそうだった。	クイズけいしきにより親近感をもたせた	スタッフ5名 父：栗田 母：石山正登 姉：中島純子 弟：山中誠司 劇進行役：遠津真知子
15:25		『非常持ち出し袋』講演終了						
15:30		質問受け付け	石山					

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(学習の準備段階から授業時間(コマ)毎に記載して下さい。)

コマ	日時	場所	学習内容	教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
1	0:00						スクリーン ビデオ プロジェクター スライド	恐怖感だけを残すのではなく、地震に立ち向かうためには何をしたら良いのかという発想にいかにもっていくか。
2.	0:00							

VI実践後

参加者へのアンケート結果	<p>楽しく寸劇をみることができた。 搬送法のやり方を学べてよかった。 搬送法は実際に簡単にできるから実用性がある。 災害時にどのような行動をとればよいかわかった。 非常持ち出し袋を家で用意しておきたくなった。 何が災害時に必要なものかわかった。 お父さん役がたのしかった 声がちいさかった。 面白がってやるものではないと思うという意見。 e t c</p>	
成果として得たこと	<p>声がちいさく、聞こえないというアンケートが少数だったが、この対策としてピンマイクを使用することを検討。 楽しかったという意見が多かったが、面白がってやるものではないという意見もごく少数あった。このことについて、今後劇団の方針を変えるべきかどうか考える必要がある。</p>	
成果物	<p>(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。)</p>	
広報方法	広報した先	
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	<p>少ない練習時間の中でよい結果が出せたと思う。 今後の課題は、新しい台本を作ることと、すべての劇に音源を入れること。また、楽しく見てもらうことにこだわったが、次回からは、少し防災学として中身の濃いしあがりになりたい。</p>	
今後の予定	来年度以降の進め方	<p>パワーポイントに頼らず、寸劇としての表現力を高めていく。</p>
	是非実施してみたい取り組み	<p>台本の改正 全体の音源の挿入</p>